

平和・民主・革新の日本をめざす京都・中京の会

京都・中京革新懇

ニュース：NO. 34

発行 2018年8月10日

京都・中京革新懇

電話 075-256-1881

事務局 〒604-0981 京都市中京区御幸町通丸太町下ル御幸町ビル5階 京都法律事務所気付



京都・中京革新懇の第3期1回目の拡大代表世話人会を7月27日、先斗町の「やまとみ」(女将さんは代表世話人のお一人でもある)で行いました。

会議は、最初の15分で事務局から報告・提案を行ったのち、中京革新懇の代表世話人のお一人で知事選に立候補された福山和ersonさんからの発言を受けた後、福山さんの大奮闘をねぎらう懇親を行いました。

福山さんの言葉

福山さんは「選挙の時には本当にお世話になりました。みなさん健闘したと

福山さんを迎え 拡大世話人会開く

福山さんの大奮闘ねぎらい懇談



おっしゃっていたのですが、自分としては8時に当確が出た大変悔しい思いを味わった。65%の人のところにはもしかしたら何か山が動くかもしれない。とか、何か起こるかもしれない。など、という実感を持っていただくと、というところには

のが最大の問題だと思っ
ている。しかし、民主府政
の会の皆さんと従前選挙
でいっしょにたたかおうと
いうことになっていなか
った市民のみなさんと、本
格的に共闘したという意
味でいうと非常に稀有な
体験をした。今後、京都の
経験はどう受け止めるか
というような営みがはじ
まっています、みんな世の
中を良くしていく方向で
少しでも変えていくけれ
なと思っている」と語っ
ていただきました。

知事選挙の教訓

福山さんの「人をつない
でいくことを大切にした
たかい方を大事にした」
(4月9日報告集会)とい
う言葉どおり、「つなぐ京
都」の呼びかけ人も当初の
5人から210人に広がり
、日々進化する政策作り
などでも、宣伝戦でも大き
な力を発揮し、府知事選
の新たな歴史の序章とも



い
み
つ
あ
知
発
つ
た
新
元
表
ま
し
た

出すべき貴重な教訓を生
み出したものとなった。
つづいて隅井代表世話
人の発声で乾杯を行った
あと、出席者全員から順次
知事選の感想をまじえて
発言を受けました。全体を
つうじて「府知事選での新
たな歴史の序章ともいう
べき貴重な教訓を生み出
した」と認識で一致し、元
気での出る第1回拡大代
表世話人会・懇親会となり
ました。

中京革新懇主催
**「安全・安心の中京の
まちづくりについて考
える」学習交流会**
とき 9月28日(金)
18:30-20:40
場所 ハートピア京都
* 話題提供者:調整中
災害多発時代! どうす
べきか様々考えます

中京平和映画祭2018
ひまわり
~沖縄は忘れない あの日の空を~
とき 8月31日(金)PM6:45~8:45
参加協力費 500円 小・中学生無料
ところ こども未来館
4階第一研修室
中京区間之町通り竹屋町下ル
中京平和映画祭2018実行委員会

京都の夏の風物詩 地蔵盆

地蔵盆の風景

地蔵盆は、京都府を始め滋賀県・奈良県・大阪府・兵庫県・福井県など主に京都周辺の府県で盛んに行われています。石仏や絵像や木像の「お地蔵さん」を町でお祀りする行事です。普段、地蔵堂に安置され、町の暮らしを見守っている「お地蔵さん」がお堂から運び出され、家の中や空き地・道路・集会所などに作られた祭壇にお祀りされます。

運営主体

町内会・町内の子供会などが運営主体となっており、町内会単位



に行われることがほとんどです。

供物などの飾り付け

町内の人たちからお供えを集め、お地蔵さんを祀る祭壇に花や供物、お札や地蔵、幡(ばた)などを飾り付けます。火を灯した提灯(ちようちん)に似ているところからホオズキをお飾りの花として使います。

会場まわり

会場まわりは灯籠(とうろう)や行燈(あんどん)、提灯などで飾られる。子どもが生まれると、健やかな成長を願ってその子の名前を書いた提灯が作られ、その子が「地蔵盆」に参加しているあいだ毎年飾られます。灯籠や行燈にローソクを立て、夜の明かりを楽しむこともある。また、「地蔵盆」の会場の入口に吊るす大きな行燈もあります。

数珠まわしなどの伝統行事

「地蔵盆」は、町内によって、町内の子供たちが直径1メートルの大きな



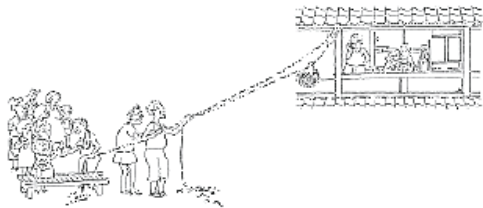
きな数珠を囲んで座り、大人もその輪に加わりながら僧侶の読経にあわせて順々に回す「数珠まわし」(「数珠繰り」ともいう)が行われる町内。読経や「数珠まわし」などの宗教色をなくして「夏まつり」などの地域行事として実施しているところもあります。

遊びのイベント

ゲーム大会など子ども向けの行事がプログラムに並ぶ。夜になると花火大会や盆踊り、映画会などが行われるところも。また、大人だけの交流の場がもたれるところもあり、町内における貴重なコミュニケーションの機会ともなっています。

福引き

子どもにとって最大の楽しみである福引きは、主にプログラムの終盤に行われる。「番(ふご)おろし」といった昔ながらの形式で行うところも。「番」とはかごのこととで、くじで当たった景品をかごに入れて、家の2階などの高所からロープで吊り降ろします。こうした光景を見ることが最近では少なくなりました。



供物のお下がり
お菓子などの供物は、お下がりとして子どもたちに配られます。夏の終わりに体力を消耗した子どもたちの栄養を補給しようと落雁を配ったとも言われています。

町内を見守るお地蔵さん

「地蔵盆」が終わると、祠から移動させたお地蔵さんは元の場所に戻ります。町内の住民は、日頃からの感謝の気持ちを込めて、祠をきれいに掃除し、新しい花を活けます。地蔵盆の時期だけではなく、まちの辻々で見かけるこうした光景は、京都ならではのなにかもしれません。

【参考文献】

「京都市文化財保護課ホームページ」
「京都地蔵盆の歴史」村上紀夫著法蔵館など

中京区内の地蔵堂分布表

地区	学区	町内数	地蔵数	平均
東北	梅屋	31	19	0.61
	竹間	31	13	0.42
	富永	30	10	0.33
	教業	24	17	0.71
	城巽	28	8	0.29
	龍池	22	1	0.05
	初音	29	6	0.21
東南	柳池	27	9	0.33
	銅駝	22	11	0.50
	乾	27	9	0.33
	本能	24	6	0.25
	明倫	27	3	0.11
	日彰	28	11	0.39
	生祥	24	6	0.25
西部	立誠	27	24	0.89
	聚楽廻	5	22	0.44
	西ノ京	62	108	1.74
	壬生	30	85	2.83
合計		498	383	0.77